

# 平成14年度 高等学校教育課程実施状況調査報告書の概要

## 国語 I

### 1. 今回の調査結果の特色

#### (1) ペーパーテスト調査の結果の概要

##### ア 全般的な状況

国語 I においては、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計は、44問中37問であり、全体の問題数の半分以上を占めている。

##### イ 内容・領域、観点等からみた特色

(ア) 表現（音声言語）、表現（文字言語）、理解（現代文－文学的な文章）、理解（現代文－論理的な文章）、理解（古文）、理解（漢文）、言語事項の7つの内容・領域区分のうち、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が、各区分の問題数の半数に達しなかったのは「表現（音声言語）」のみである。

特に、「表現（文字言語）」、「理解（現代文－文学的な文章）」については、すべての問題が、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものとなっている。

評価の観点別にみても、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が、各観点の問題数の半数以上となっている。

(イ) 学習指導要領の目標、内容に照らした学習の実現状況について、内容・領域、観点ごとにみた場合、次のようなことが明らかになった。

- ・ 自ら興味・関心を持ったことについて、自分の考えを書く力は、ほぼ身に付いていると考えられる（世界地図を見て考えたことを書く 問題B<sup>1</sup>－二）。しかし、「話すこと・聞くこと」にかかわる、話の進め方をとらえ、自分の意見を筋道を立てて述べる力は十分身に付いているとはいえない（問題A<sup>1</sup>－二，A<sup>1</sup>－三）。
- ・ 「読むこと」については、文章の要旨をとらえたり登場人物の心情や主題を読み取ったりするなど、文章に書かれている内容をおおまかに把握する力はほぼ身に付いていると考えられる。しかし、どのような表現を用い、どのような構成や展開で文章が書かれているのかなどという、筆者の考えの進め方や表現意図をとらえる力、文章の主題を踏まえて自分の考えを深めたりまとめたりする力は十分身に付いているとはいえない（問題A<sup>2</sup>－四，A<sup>2</sup>－五，A<sup>3</sup>－四，B<sup>3</sup>－四）。
- ・ 「言語事項」については、漢字の読み書き、語句の意味、文語や訓読のきまりなどについては、ほぼ身に付いていると考えられる（例えば、漢字の読みは「環境」97.9%、「携帯」97.8%、漢字の書きは「湿度」88.9%、「企業」82.5%の通過率（問題A<sup>4</sup>－一，B<sup>4</sup>－一））。ただし、手紙文の頭語「拝啓」を問う問題の通過率は、34.9%であった（問題A<sup>4</sup>－四－1）。

(ウ) 本調査は、選択肢から選んで解答する形式、語句を記入して解答する形式、文章を記述して解答する形式の3種類の解答形式で行った。このうち、選択肢から解答を選んで解答する形式の問題では、22問中19問が、語句を記入して解答する形式の

問題では、15問中14問が、文章を記述して解答する形式の問題では、7問中4問が、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものとなっている。

## (2) 質問紙調査の結果の概要

### ア 国語の学習に対する意識について

国語の学習に対する生徒の意識については、高等学校も中学校と同様の傾向が見られる。例えば、生徒の81.9%が「国語の勉強は大切だ」において肯定的な回答をしているにもかかわらず、「国語の勉強が好きだ」では、肯定的な回答は45.2%にとどまっている（中学校第3学年では、「国語の勉強は大切だ」81.7%、「国語の勉強が好きだ」49.4%）。

また、指導内容についても、小、中学校の結果と同じように生徒と教師に意識の差が見られる。例えば、「人前でスピーチや説明をすること」については、「生徒が興味を持ちやすい」と回答した教師は52.5%であったが、「好きだった」と回答した生徒は10.4%にとどまり、「きらいだった」と回答した生徒は47.7%であった。

### イ 読書について

「学校の図書館などを利用して、読書をしていますか」、「本をよく読む方だ」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の方が、否定的な回答をした生徒より標準化した得点の平均が高い傾向が見られた。これは、中学校の結果と同じ傾向である。

また、「読書を習慣化させるための特別な取組を行っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした教師は33.9%にとどまり、中学校より低い（中学校第3学年で38.7%）。

## 2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

### (1) 国語の学習への「関心・意欲・態度」を高める指導の充実

国語の学習への「関心・意欲・態度」を一層高めるためには、生徒の実態に応じ、導入の学習活動に工夫を凝らして興味・関心を高める、多様な言語活動を通してより深くより広く学びたいという意欲を高める、学習活動を生徒にとって必然性のあるものにするなどの指導上の工夫が求められる。

### (2) 論理的思考力を育成する指導の充実

「話すこと・聞くこと」については、話の進め方をとらえ、自分の意見を筋道を立てて述べる力は十分身に付いているとはいえない状況を踏まえ、メモを取りながら聞くなど目的をもって聞く、論理的な文章を読ませたり、調査したことを記録し、まとめて報告したりする、更には、話し合い、発表、討論を積極的に経験させるなどの言語活動を意図的、計画的に指導に取り入れ、論理的な思考力を育成していくことが求められる。

### (3) 表現に着目する力を育成する指導の充実

「読むこと」については、筆者の考えの進め方や表現意図をとらえ、文章の主題について自分の考えを深めたりまとめたりする力を付けるため、何が書いてあるのかという読みにとどまらず、ワークシートなどを活用して、どのように書いてあるのか、なぜこのように書いているのかなどという表現の仕方にも着目する指導を行うことが求められる。また、生徒同士で意見の交換ができるようにグループ学習を取り入れる

などし、読む過程で得た考えや思いをまとめて、自分の言葉で表現しようという意欲を喚起するような指導を展開することも大切である。

さらに、古典においては、古典の文章を読み取る力を付けるだけでなく、古典と現代とのつながりを実感させたり、古典に触れる楽しさを感じさせたりすることも求められる。

(4) 社会人として必要とされる言語能力の基礎を育成する指導の充実

手紙文の頭語「拝啓」を正しく書く力が十分身に付いていないという状況が明らかになったが、このような「言語事項」的なものも含めて、社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育成するため、社会生活の中での対話場面を取り上げたり、実用的な文章や定型的な文章等を取り上げたりするなど、学習が日常の言語生活においても実際に役立つように場面設定や学習内容を工夫し、生徒の学ぶ意欲を高めることに留意した指導を推進していく必要がある。

(5) 読書に親しむ態度を育成する指導の充実

生徒の読書活動を積極的に推進し、読書を日常生活に根付かせるためには、教材と同じ作者の他の作品や同じテーマの文章を幅広く読ませたり、課題を解決するために書物を調べさせたりする学習活動を積極的に取り入れるなど、国語の学習指導に学校図書館の活用を明確に位置付けていくことが大切である。

【問題例】 国語 I A 1

学習指導要領の内容

- 中間一 B 理解ア 話や文章の主題や要旨を叙述に即して的確にとらえること。  
中間二 B 理解イ 話や文章の構成や展開に注意して、話し手や書き手の考えの進め方や強調点をとらえること。  
中間三 A 表現エ 事実と意見、説明と描写の区別などに注意し、筋道を立てて話したり書いたりすること。

(ア) 問題

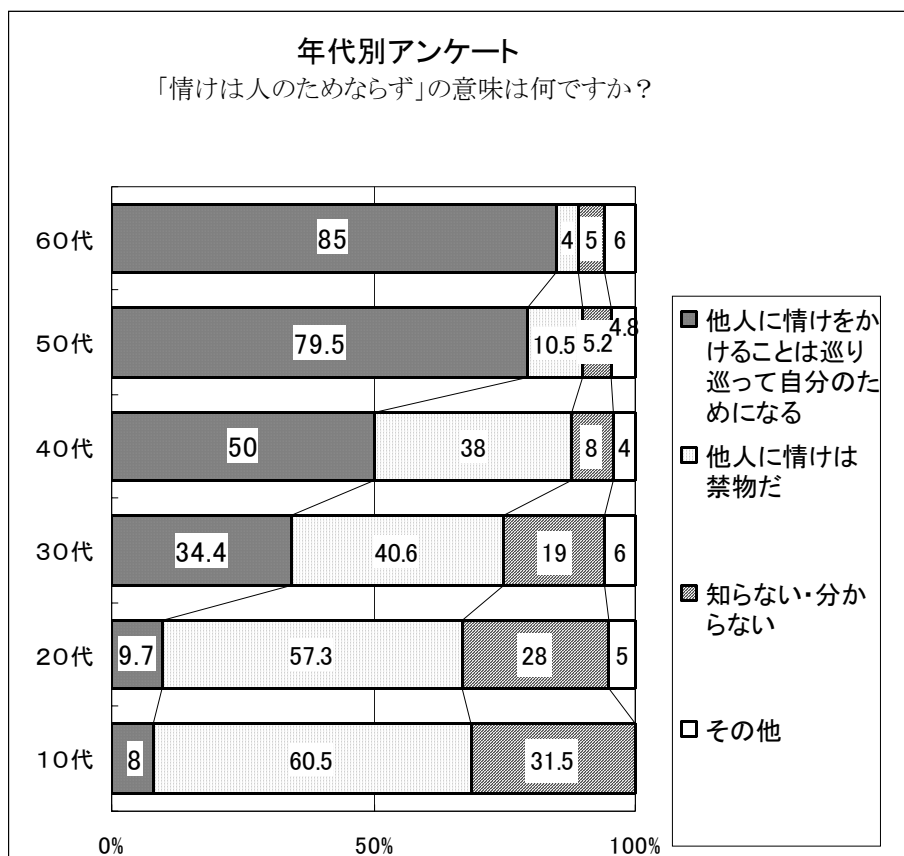
1

これから放送する内容を聞いて、あとの問いに答えなさい。

聞き取りの際の注意

- ① 放送は一回しか行いません。時間は約七分です。
- ② 2 ページの資料は放送の中で使われます。
- ③ 必要に応じて、1 ページおよび2 ページの余白を利用してメモを取りなさい。
- ④ 最初のナレーションも、問いに関係しています。
- ⑤ 「以上で放送は終わりです。それでは3 ページを開いて解答を始めてください。」と指示があるまで、3 ページ以降を開いてはいけません。

■資料 「情けは人のためならず」は、今後どのような意味で使われるか



発表者 木村良子・山田和男

一 「情けは人のためならず」ということわざは今後どのような意味で使われるかという問題について、発表した二人はそれぞれどのように考えているか。次の中から適切な組み合わせを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。

- 1 「木村」アンケートに表れなかった新しい意味で使われる。 (山田) もとの意味が大切にされて使われる。
- 2 「木村」アンケートで若い人の多くが回答した意味で使われる。 (山田) 年代の違いによって異なる意味で使われる。
- 3 「木村」アンケートに表れなかった新しい意味で使われる。 (山田) 年代の違いによって異なる意味で使われる。
- 4 「木村」アンケートで若い人の多くが回答した意味で使われる。 (山田) もとの意味が大切にされて使われる。

1)

二 二人の発表の仕方に共通する特徴として適切なものを次の中から一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。

- 1 冒頭と結びで自分の主張を述べ、そのように考える理由を順序立てて説明している。
- 2 互いの考えの違いについて比較しながら、結びの部分で自分の主張をまとめていく。
- 3 冒頭で自分の主張を説明し、それに対して予想される反論について検討をしている。
- 4 アンケートの結果や社会情勢に触れながら、徐々に自分の主張を明らかにしている。

2)

三 この発表のあとでクラスの何人かが木村さんと山田さんの考えに対する意見を述べることになり、あなたもその一人に選ばれたとする。あなたはどのような意見を述べるか。二人の考えに対する、あなたの立場や考えがクラスの仲間によく伝わる

ように、次の条件を満たしながら書きなさい。なお、二人の考えと異なる立場をとってもかまいません。

- ・二人の発表内容のいずれにも触れながら、自分の意見を述べること。
- ・あなたがどのように考える根拠について具体的に示すこと。

3)

--	--	--	--	--

ナレーション

これから放送する内容は、二人の高校生の意見発表です。

一人は木村良子さん、もう一人は山田和男さんと言います。二人

は以前、「情けは人のためならず」ということわざはどんな意味か、

友人たちと話し合ったことがあります。このことわざのものと意味

は、「他人に情けをかけることは、巡り巡って自分のためになる」と

いうものです。ところが、話し合った仲間の中には、これを「他人

に情けは禁物だ」という意味で理解している人も少なくありません

でした。

この話し合いをきっかけにして、二人は、このことわざが、実際

にどんな意味で理解されているか、知りたくなりました。そこで、

地域の人々にアンケートをして、調べてみることにしました。2ペ

ージの資料にあるグラフは、その結果をまとめたものです。

木村さんと山田さんは、このアンケート結果を参考にして、「情け

は人のためならず」ということわざが、今後どんな意味で使われる

ことになるか、お互いに予想を立ててみました。そして、それぞれ

の考えをクラスで発表してみました。

これから、二人の発表を順番に放送しますが、みなさんもクラス

の一員になったつもりで、資料を見ながら聞き取ってください。

なお、聞き取る際には次の三つの点に注意しましょう。

1 二人がどんな予想を立てているか。

2 話をどのように進めているか。

3 自分ならどう考えるか。

以上の三点です。それでは発表を始めます。

木村

これから、「情けは人のためならず」ということわざが、今後

どのような意味で使われるかという問題について、私と山田

さんの意見を発表します。まず最初に、私の意見を発表します。

私は、このことわざは、今後「他人に情けは禁物だ」という

意味が中心となって使われるだろうと考えています。

理由は二つあります。

その一つは、十代や二十代の大勢の人たちが、このことわざ

を、「他人に情けは禁物だ」という意味で理解しているからです。

資料にあるアンケートのグラフを見てください。グラフをみる

と、確かに五十代以上の方々は、全体の八十%以上がもとの意

味を答えています。ですが、十代、二十代になると、全体の六

十%近い人たちが「他人に情けは禁物だ」という意味を答えて

います。つまり、これからの社会で中心となる人々は、主とし

て「他人に情けは禁物だ」という意味で理解しているのです。

ことばは時代とともに変化します。その変化は、若い人たちが、

そのことばをどう使っているかによるのではないのでしょうか。

もう一つは、このことわざのものと意味、「人に情けをかける

ことは、巡り巡って自分のためになる」という考え方ですが、これからの社会を生きる人への教訓として、どうもふさわしくない気がするからです。これからは国際化がますます進みます。そのとき、もとの意味が国際社会で通用するでしょうか。他人に情けをかけたり、かけられたりする前に、個人として自立した生き方を目指すことが求められる。そんな時代になるのではないのでしょうか。

以上の理由から、今後、「他人に情けは禁物だ」という意味で、このことわざが使われるのは自然な流れだと、私は考えます。

#### 山田

僕は、これからもこのことわざは、「他人に情けをかけることは、巡り巡って自分のためになる」という、もとの意味が中心となつて使われるだろうと考えます。

僕も理由は二つあります。

第一に、このことわざを実際に使う人は、年齢の高い人が中心だと思っております。そして、その人たちは、もとの意味で理解しているからです。グラフの二十代以下の部分を見て下さい。およそ三十%の人が、このことわざの意味を、「知らない・分からない」と答えています。意味を知らずに使うとは考えにくいですから、若い人の三人に一人は、このことわざを使っていないことになりました。それに対して、五十代以上の人で「わからない」と答えた人はたった5%です。このことに関連して

注意してもらいたいのは、アンケートの質問の仕方です。「どんな意味か」とは聞いていますが、「どんな意味で使っているか」と聞いたものではありません。もしもそういう質問にすれば、若い年代の人は、「意味は何となくわかるけれど、使ったことはなし」と答える人が、かなり多くなつたんじゃないでしょうか。

二つ目は、これからの社会でも、もとの意味は、大切にされるだろうと思うからです。今後、日本は、高齢化がますます進むと言われていきます。そうなると、だれかに世話をしてもらわなければ、生活できない人が大勢出てきます。そういう社会で、互いに助け合ったり、いたわり合ったりするためには何が大切でしょうか。他人に情けをかけることは、やがて自分にかえてくるという気持ちではないでしょうか。このことは、若い人にとつても大切であり、これからは若い人にももとの意味が理解されてくると思います。

以上の理由から、このことわざは、これからの社会に必要な教えとして大切にされ、もとの意味が生かされて使われるだろうと、僕は考えます。

#### ナレーション

以上で放送は終わりです。それでは3ページを開いて解答を始めてください。

(イ) 今回の結果

問題番号	設問のねらい	評価の観点	解答形式	通過率 (%)	設定通過率 (%)
A 1 一	話し手の考えを的確に聞き取る。	理解の能力	選択	88.5	80 (75~85)
A 1 二	二人の話し手に共通する話の進め方の特徴を的確にとらえる。	理解の能力	選択	62.2	70 (65~75)
A 1 三	話し手の考えに対する自分の意見を筋道を立てて述べる。	関心・意欲・態度 表現の能力	記述	40.9	50 (45~55)

(注) 設定通過率と調査結果の通過率を比較するに当たっては、設定通過率を中心に上下それぞれ5%の幅を設け、この幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度と考えられるもの」、その幅を超えていれば、「設定通過率を上回ると考えられるもの」、その幅に達しなければ、「設定通過率を下回ると考えられるもの」とした。( )は、その数値の幅を示している。

【解答類型及び反応率】

問題番号	解答類型	反応率 (%)
A 1 一	1と解答しているもの	1 2.9
	2と解答しているもの	2 5.2
	3と解答しているもの	3 2.8
	4と解答しているもの	4 ◎ 88.5
	上記以外の解答	9 0.1
	無解答	0 0.5
A 1 二	1と解答しているもの	1 ◎ 62.2
	2と解答しているもの	2 3.7
	3と解答しているもの	3 5.2
	4と解答しているもの	4 28.2
	上記以外の解答	9 0.1
	無解答	0 0.6
A 1 三	①と②の条件がともに満たされているもの	1 ◎ 40.9
	①の条件のみが満たされているもの	2 17.1
	②の条件のみが満たされているもの	3 13.4
	上記以外の解答	9 14.9
	無解答	0 13.8
【条 件】		
① 二人の発表者の発言内容に触れながら、自分の意見が書かれている。		
② 自分の考えの根拠として、賛成できない発表者の考えにはどのような問題があるか、賛成できる発表者の考えにはどのような		

点に説得力があるかなどが具体的に書かれている。 ・表記や漢字などの誤りについては許容する。 ・表現が話しことば調でないものも許容する。
---

◎ 正答

【問題例】 国語 I A 4

学習指導要領の内容

小問四 1 言語事項ア 文章や文の組み立て、語句の働き、表記の仕方などを理解すること。

(ア) 問題

四 次の手紙文はある高校の卒業生が、高校時代の担任にクラス会について案内をする内容のものである。これを読んで、あとの1と2の問いに答えなさい。

( 1 ) 日増しに秋も深まってまいりました。鈴木先生にはますますご健勝のこととお察し申し上げます。私たちも皆元気にすごしていらつしやいますので、ご安心ください。

さて、早いもので、南北高校を卒業してからかれこれ二十年が経ち、五年ごとのクラス会も四度目を迎えることになりました。久しぶりに先生を囲み、旧交を温めたく、来年の正月に開催しようと考えております。

先生のご都合につきまして、近日中に電話でうかがいたいと思しますので、よろしくお願い申し上げます。お目にかかることを心から楽しみにしております。

最後に、先生とご家族の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 敬 具

平成十四年十一月一日

鈴木二郎先生

クラス会幹事代表 田中一郎

1 空欄(1)に、「敬具」と対応する、ふさわしい頭語(手紙文の書き出しの語)を

□の中に書きなさい。

1

(イ) 今回の結果

問題番号	設問のねらい	評価の観点	解答形式	通過率(%)	設定通過率(%)
A 4 四 1	手紙文の構成について理解し、適切な用語を使う。	知識・理解	求答	34.9	65 (60~70)

(注) 設定通過率と調査結果の通過率を比較するに当たっては、設定通過率を中心に上下それぞれ5%の幅を設け、この幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度と考えられるもの」、その幅を超えていれば、「設定通過率を上回ると考えられるもの」、その幅に達しなければ、「設定通過率を下回るものと考えられるもの」とした。( )は、その数値の幅を示している。

【解答類型及び反応率】

問題番号	解答類型	反応率(%)
A 4 四 1	「拝啓」、「謹啓」、「肅啓」、「恭啓」等を解答しているもの	1 ◎ 22.4
	平仮名で書いてあるもの(例)「はいけい」や「きんけい」等	2 ○ 10.1
	漢字の交ぜ書きになっているもの(例)「拝けい」、や「きん啓」等	3 ○ 2.4
	語彙としては適切であるが、漢字の使用に間違いのあるもの(例)「拝敬」等	4 31.1
	「前略」や「冠省」等	5 6.0
	上記以外の解答	9 13.0
	無解答	0 14.9

◎ 正答 ○ 準正答

学習指導要領の内容

- 中間一 B 理解力 文章の内容や形態に応じた表現上の特色、文体の特徴などに注意して読むこと。
- 中間二 B 理解力 文章の内容や形態に応じた表現上の特色、文体の特徴などに注意して読むこと。
- 中間三 B 理解イ 話や文章の構成や展開に注意して、話し手や書き手の考えの進め方や強調点をとらえること。
- 中間三 A 表現ア 目的や場に応じて話題や題材を選び、自分の考えをまとめること。

(ア) 問題

3

次の文章は「伯楽」（馬の能力を正しく見分け、引き出すことのできる人）と「千里の馬」（一日に千里を走る能力のある馬）の話である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

世<sup>ニ</sup>有<sup>リテ</sup>伯<sup>ハク</sup>樂<sup>ニ</sup>、然<sup>シカ</sup>後<sup>ニ</sup>有<sup>リ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>馬<sup>ヲ</sup>。千<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>馬<sup>ハ</sup>常<sup>ニ</sup>有<sup>レトモ</sup>、而<sup>シテ</sup>伯<sup>ハク</sup>樂<sup>ハ</sup>不<sup>ク</sup>常<sup>ニ</sup>有<sup>ラ</sup>。

①

(注1)

(注2)

(注3)

(注4)

故<sup>ニ</sup>雖<sup>イヘドモ</sup>有<sup>リト</sup>名<sup>ニ</sup>馬<sup>ヲ</sup>、祇<sup>タダ</sup>辱<sup>ハズカシメラレテ</sup>於<sup>ニ</sup>奴<sup>ノ</sup>隸<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>、駢<sup>ヘン</sup>死<sup>シ</sup>於<sup>ニ</sup>槽<sup>ノ</sup>櫪<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>、不<sup>ズ</sup>知<sup>レ</sup>其<sup>ノ</sup>能<sup>ヲ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ヲ</sup>稱<sup>セラレ</sup>也<sup>ナリ</sup>。馬<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>者<sup>ハ</sup>、一<sup>ニ</sup>食<sup>ニ</sup>或<sup>アルイハ</sup>尽<sup>クス</sup>粟<sup>ノ</sup>一<sup>ニ</sup>石<sup>ヲ</sup>、食<sup>ヤシナフ</sup>馬<sup>ヲ</sup>者<sup>ハ</sup>、不<sup>ル</sup>以<sup>モ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ヲ</sup>稱<sup>セラレ</sup>也<sup>ナリ</sup>。馬<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>者<sup>ハ</sup>、一<sup>ニ</sup>食<sup>ニ</sup>或<sup>アルイハ</sup>尽<sup>クス</sup>粟<sup>ノ</sup>一<sup>ニ</sup>石<sup>ヲ</sup>、食<sup>ヤシナフ</sup>馬<sup>ヲ</sup>者<sup>ハ</sup>、不<sup>ル</sup>知<sup>レ</sup>其<sup>ノ</sup>能<sup>ヲ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ヲ</sup>而<sup>シテ</sup>食<sup>ハ</sup>也<sup>ナリ</sup>。是<sup>コノ</sup>馬<sup>也</sup>、雖<sup>モ</sup>有<sup>リト</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>能<sup>ヲ</sup>、食<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>飽<sup>カ</sup>力<sup>ナ</sup>。

不足、才美不<sup>レ</sup>外<sup>ニ</sup>見<sup>レ</sup>。且<sup>カ</sup>欲<sup>スル</sup>与<sup>ト</sup>常<sup>ノ</sup>馬<sup>一</sup>等<sup>ニ</sup>、不可<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。安<sup>ラ</sup>求<sup>ム</sup>其<sup>ノ</sup>能<sup>ル</sup>千<sup>リ</sup>

里<sup>一</sup>也<sup>。</sup>策<sup>之</sup>不<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>道<sup>ヲ</sup>、食<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>ハ</sup>尽<sup>ク</sup>其<sup>ノ</sup>材<sup>ヲ</sup>、鳴<sup>ケ</sup>之<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>ハ</sup>通<sup>ズ</sup>其<sup>ノ</sup>意<sup>。</sup>

執<sup>レ</sup>策<sup>ヲ</sup>而<sup>レ</sup>臨<sup>ミ</sup>之<sup>ニ</sup>、曰<sup>ハク</sup>、「天下<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>良<sup>ノ</sup>馬<sup>。</sup>」嗚<sup>ア</sup>呼<sup>ア</sup>、其<sup>レ</sup>真<sup>ニ</sup>無<sup>キ</sup>馬<sup>。</sup>耶<sup>。</sup>其<sup>レ</sup>真<sup>ニ</sup>不<sup>ル</sup>

識<sup>シ</sup>馬<sup>ヲ</sup>耶<sup>。</sup>

(韓愈『雜説』による。)

(注1) 奴隸人 || 使用人。

(注2) 駢死 || 首を並べて死ぬ。

(注3) 槽檻之間 || 馬小屋の中。

(注4) 粟一石 || 穀物約六十リットル。非常に量が多いということ。

(注5) 策 || 扱う、使いこなす。

(注6) 其道 || 千里の馬にふさわしい方法。

(注7) 材 || 才と同じ。

一 文章中の之・之・之 は同じものを指す。それは何か。次のうちから適切なものを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。

- 1 伯樂
- 2 奴隸人
- 3 千里馬
- 4 常馬

8)

二 文章中に千里馬常有、而伯樂不常有。とあるが、それはどういうことか。次のうちから適切なものを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。①

- 1 千里の馬も伯樂も、いくら捜してもいつもいるとは限らない。
- 2 千里の馬はいつでもいるが、伯樂はいつもいるとは限らない。
- 3 千里の馬はいつもいるとは限らないが、伯樂はいつでもいる。
- 4 千里の馬も伯樂も、捜す気になればいつでもすぐそばにいる。

9)

三 文章中に安求其能千里也。とあるが、この表現は、「千里の馬」がどのようなことか。次のうちから適切なものを一つ選び、その番号を  の中に書きなさい。②

- 1 千里の馬がいつでも簡単に手に入るようになる。
- 2 千里の馬がいずれどこかに立ち去ることになる。
- 3 千里の馬が安らかに暮らしていけるようになる。
- 4 千里の馬が持っている能力を発揮できなくなる。

10)

四 「伯樂」という語は、現在でもスポーツ・芸術などの世界で使われている。それらの世界では「伯樂」といわれる人は、「千里の馬」に相当する人をどのように扱うとあなたは考えるか。これらの世界から例を一つ取り上げ、本文の内容を参考にして次の欄に書きなさい。

11)

(イ) 今回の結果

問題番号	設問のねらい	評価の観点	解答形式	通過率 (%)	設定通過率 (%)
B 3 一	漢文の文体の特徴に注意して、指示語の内容をとらえる。	理解の能力	選択	65.3	70 (65～75)
B 3 二	漢文の表現上の特色に注意して内容をとらえる。	理解の能力	選択	86.9	75 (70～80)
B 3 三	書き手の考えの強調点をとらえる。	理解の能力	選択	62.9	55 (50～60)
B 3 四	文章の主題を踏まえて、自分の考えをまとめる。	関心・意欲 ・態度 表現の能力	記述	27.1	50 (45～55)

(注) 設定通過率と調査結果の通過率を比較するに当たっては、設定通過率を中心に上下それぞれ5%の幅を設け、この幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度と考えられるもの」、その幅を超えていれば、「設定通過率を上回ると考えられるもの」、その幅に達しなければ、「設定通過率を下回ると考えられるもの」とした。( )は、その数値の幅を示している。

【解答類型及び反応率】

問題番号	解答類型	反応率 (%)
B 3 一	1と解答しているもの	9.3
	2と解答しているもの	10.5
	3と解答しているもの	65.3
	4と解答しているもの	11.8
	上記以外の解答	0.1
	無解答	3.0
B 3 二	1と解答しているもの	3.6
	2と解答しているもの	86.9
	3と解答しているもの	5.2
	4と解答しているもの	1.8
	上記以外の解答	0.1
	無解答	2.5
B 3 三	1と解答しているもの	16.2
	2と解答しているもの	6.1
	3と解答しているもの	11.7
	4と解答しているもの	62.9
	上記以外の解答	0.0
	無解答	3.0

B 3	四	下記の条件をもとに、該当する番号を記入する。		
		①と②の条件が満たされているもの 例：「スポーツの世界で、すぐれたコーチが、才能のある選手に対して、十分な栄養管理をしたり、その選手の能力に応じたトレーニングを課したりしている。」	1 ◎	27.1
		上記以外の解答	9	19.8
		無解答	0	53.2
		<p>[条件]</p> <p>①スポーツ・芸術などの世界を例にとっていること。(科学・学問など、他の「世界」でも可)</p> <p>②「伯楽」が「千里の馬」に相当する人に対し、その能力にふさわしい扱いをしていることを書いていること。 (扱いの例は、一つ挙げていけばよい。)</p> <p>(注) 1 具体例や固有名詞を挙げているものも可とする。 2 表記や漢字等の誤りについては許容する。</p>		

◎ 正答